

SYLLABUS

シラバス

令和8年度前期

理学療法士科 2年次

医療法人社団 慈恵会

神戸総合医療専門学校

理学療法士科 教育課程（令和8年度前期）

2年次

科目名	単位数	時間数	年次	時期	科目名	単位数	時間数	年次	時期
倫理学	2	30	1	前期	理学療法評価学Ⅰ	1	30	1	後期
物理学	1	15	1	前期	理学療法評価学Ⅱ	1	30	1	後期
統計学	1	15	1	前期	理学療法評価学Ⅲ	1	30	1	後期
生物学	2	30	1	前期	理学療法評価学Ⅳ	1	30	2	前期
医学英語	2	30	1	前期	理学療法評価学Ⅴ	1	30	2	前期
保健体育Ⅰ	1	30	1	前期	理学療法評価学Ⅵ	1	30	2	前期
保健体育Ⅱ	1	30	1	後期	運動療法学Ⅰ	1	30	2	前期
情報処理演習	1	15	1	前期	運動療法学Ⅱ	1	30	2	前期
コミュニケーション論	2	30	1	後期	物理療法学Ⅰ	1	30	2	前期
キャリア教育Ⅰ	2	30	1	前期	物理療法学Ⅱ	1	30	2	後期
キャリア教育Ⅱ	1	15	3	前期	日常生活活動学Ⅰ	1	30	2	前期
解剖学Ⅰ	2	60	1	前期	日常生活活動学Ⅱ	1	30	2	後期
解剖学Ⅱ	1	30	1	後期	装具学	1	30	2	前期
解剖学演習Ⅰ	1	15	1	前期	義肢学	1	30	2	後期
解剖学演習Ⅱ	1	30	1	前期	運動器系理学療法学Ⅰ	1	30	2	前期
解剖学演習Ⅲ	1	30	1	後期	運動器系理学療法学Ⅱ	1	30	2	後期
生理学Ⅰ	1	30	1	前期	内部障害理学療法学Ⅰ	1	30	2	前期
生理学Ⅱ	1	30	1	後期	内部障害理学療法学Ⅱ	1	30	2	前期
生理学Ⅲ	1	30	1	後期	中枢神経系理学療法学Ⅰ	1	30	2	前期
運動生理学演習	1	30	1	後期	中枢神経系理学療法学Ⅱ	1	30	2	後期
運動学Ⅰ	1	30	1	後期	中枢神経系理学療法学Ⅲ	1	30	2	前期
運動学Ⅱ	1	30	1	後期	中枢神経系理学療法学Ⅳ	1	15	2	後期
運動学Ⅲ	1	30	1	後期	小児理学療法学	1	30	2	後期
人間発達学	1	30	1	前期	スポーツ障害理学療法学	1	30	2	後期
内科学Ⅰ	1	30	1	後期	疼痛理学療法学	1	30	2	後期
内科学Ⅱ	1	30	2	前期	理学療法臨床技能演習	1	30	2	後期
臨床心理学	1	30	1	前期	地域理学療法学総論	1	30	2	後期
精神医学	1	30	2	後期	生活環境学	1	30	2	後期
整形外科Ⅰ	1	30	2	前期	地域理学療法学各論	1	30	3	後期
整形外科Ⅱ	1	30	2	後期	臨床実習Ⅰ	1	45	1	後期
神経内科学Ⅰ	1	30	2	前期	臨床実習Ⅱ	3	135	2	後期
神経内科学Ⅱ	1	30	2	後期	臨床実習Ⅲ	7	315	3	前期
小児科学	1	15	1	後期	臨床実習Ⅳ	7	315	3	後期
一般臨床医学Ⅰ	1	30	2	前期	臨床実習Ⅴ	2	90	3	前期
一般臨床医学Ⅱ	1	30	2	後期	理学療法特論Ⅰ	1	30	1	前期
病理学概論	1	30	1	後期	理学療法特論Ⅱ	1	30	1	後期
臨床栄養学	1	15	2	前期	理学療法特論Ⅲ	1	30	2	前期
臨床薬学	1	15	2	前期	理学療法特論Ⅳ	1	30	2	後期
公衆衛生学	1	30	1	後期	総合理学療法学演習Ⅰ	3	90	3	前期
社会福祉学	1	30	1	後期	総合理学療法学演習Ⅱ	3	90	3	後期
リハビリテーション概論	1	30	1	前期					
リハビリテーション医学	1	30	2	後期					
理学療法概論Ⅰ	1	30	1	前期					
理学療法概論Ⅱ	1	30	2	前期					
臨床運動学	1	30	2	前期					
基礎理学療法学演習Ⅰ	1	30	1	後期					
基礎理学療法学演習Ⅱ	1	30	2	後期					
理学療法研究論	1	15	3	後期					
理学療法管理学Ⅰ	1	15	1	後期					
理学療法管理学Ⅱ	1	15	2	後期					

科目名		授業形態	担当教員名	
内科学Ⅱ		講義	坂東 恵美子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
本講義では、内科学Ⅰにひきつづき、内科の主要な疾患について理解することを目的とする。具体的には、器官別に正常の構造・機能に関する知識を再度整理するとともに、主要疾患の病因および病態についての基本的知識を学習する。				
授業の到達目標				
疾患の病因・病態について基本的知識を理解し説明できるようになる。				
授業計画				
回	内容			
1	代謝性疾患（1） 代謝に関する基本事項（ビタミン、酵素を含む）			
2	代謝性疾患（2） 代謝に関連する疾患			
3	腎・泌尿器系疾患（1） 腎・泌尿器に関する基本事項			
4	腎・泌尿器系疾患（2） 腎臓に関連する疾患			
5	腎・泌尿器系疾患（3） 泌尿器に関連する疾患			
6	呼吸器系疾患（1）：呼吸器臓器に関する基本的な解剖学的・生理学的事項			
7	呼吸器系疾患（2）：呼吸器系の代表的な疾患（感染症）			
8	呼吸器系疾患（3）：呼吸器系の代表的な疾患（機能的・器質的疾患）			
9	消化器疾患：上部・下部消化管の基本的事項			
10	消化管疾患：上部・下部消化管の疾患			
11	肝・胆・膵疾患（肝・胆・膵の構造と機能、肝・胆・膵に関連する疾患）			
12	内分泌系疾患（1） 内分泌に関する基本事項			
13	内分泌系疾患（2） 内分泌に関連する疾患			
14	感染症：感染症総論および各論（病原微生物による各感染症について）			
15	加齢医学：加齢による生体の変化			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	70%	理学療法士国家試験の過去10年間の問題を参考にして出題する。なお、国試過去問については、講義内で配布する。		
レポート・課題				
小テスト	30%	3回実施する。各疾患に関連する解剖生理学の範囲から出題する。		
その他				
自由記載	国家試験過去問題については各自授業進度に合わせて学習すること。			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
【副読本として】疾患とつながる解剖生理図鑑	グロー	永岡書店		
自由記載	適宜資料を配布する。講義資料ファイルを作り、ファイリングすること。			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なるほどなっとく！ 内科学 第3版	浅野嘉延	南山堂		
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版	前田真治・上月正博・飯山準一	医学書院		
自由記載				
備考				
講義の順番は前後することがある。				

科目名		授業形態	担当教員名	
整形外科学 I		講義	山川 亮・見川 隆三・松本 直也 三裏 菜緒花・金森 慎治	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
理学療法の対象疾患の中心をなす整形外科疾患の診断法や治療法の原則を理解できるようになることを目的とする。また、疾患における病態・症状を理解することで、整形外科疾患の理学療法との繋がりを自ら想像することができることを目的とする。				
授業の到達目標				
実践を念頭に、できるだけ整形外科臨床に即した内容を理解し、整形外科的な常識を身につけることを目標とする。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション 診療の基本 【山川】			
2	主訴・主症状から想定すべき疾患、整形外科的現症の取り方とその捉え方 【松本】			
3	検査 (X線、CT、MRI) 【三裏】			
4	保存療法 (薬物療法、リハビリテーション) 【松本】			
5	手術療法 【見川】			
6	変形性関節症、ロコモティブシンドローム 【三裏】			
7	関節リウマチとその類縁疾患① 【松本】			
8	関節リウマチとその類縁疾患② 【松本】			
9	軟部組織・骨・関節の感染症、四肢循環障害と阻血壊死性疾患 (骨壊死) 【見川】			
10	先天性骨系統疾患、先天異常症候群、代謝性骨疾患 【山川】			
11	骨腫瘍、軟部腫瘍 【山川】			
12	整形外科的検査① 【金森】			
13	整形外科的検査② 【金森】			
14	整形外科的検査③ 【金森】			
15	整形外科的検査④ 【金森】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	90%	60% : 山川・見川・松本・三裏、30% : 金森		
レポート・課題				
小テスト	10%	講義内で数回 確認テストを実施する		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準整形外科学 第16版	松野丈夫・中村利孝 総編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

令和8年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
神経内科学 I		講義	劉 兆権	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
概論及び各論を通して、神経内科学の基本概念及び基本知識を理解してもらうことを目的としています。				
授業の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・局在診断を説明できる。 ・代表的疾患の原因、症状、治療法、予後を説明できる。 				
授業計画				
回	内容			
1	神経系解剖生理学 (1) 神経の分類と機能			
2	(2) 伝導路と反射			
3	神経系病態症候学 (1) 意識障害			
4	(2) 運動麻痺			
5	(3) 運動失調			
6	(4) 高次脳機能障害1 失語症、失認			
7	(5) 高次脳機能障害2 失行、記憶障害、認知症			
8	小テスト			
9	神経疾患各論 (1) 脳血管障害			
10	(2) 脳腫瘍			
11	(3) 錐体外路の変性疾患 パーキンソン病			
12	(4) 末梢神経疾患1 顔面神経麻痺、ギラン・バレー症候群			
13	(5) 末梢神経疾患2 しびれ、周期性四肢麻痺			
14	(6) 球麻痺と仮性球麻痺			
15	復習			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	90%	局在診断を説明でき、代表的疾患の発症機序、症状を理解できる点を評価基準とする。		
レポート・課題				
小テスト				
その他	10%	疑問点や不明点について、積極的に質問し、活発に論議することを評価する。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準理学療法学・作業療法学：専門基礎分野 神経内科学 第6版	川平和美	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
一般臨床医学 I		講義	澤田 勝寛・酒巻 直美・福林 秀幸・小堀 博史	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
リハビリテーション分野では多岐にわたる疾患について幅広く診ていくことが必要であり、臨床医学とは診断の学びとも言える。また、臨床の現場では他職種の役割の理解も必要となる。この講義では、以下①～③を目的とする：①医療従事者にとって必要な心得や救急医学、リスクマネジメントについての知識を身に付ける。②リハビリテーションと関連する疾患とその情報収集について学ぶ。③診断と治療が同時に進行する救急医療の現場で求められる応急処置や対応を理解する。				
授業の到達目標				
医療全般に関わる広い視野を持つ。救急医学、リスクマネジメントの重要性、また様々な疾患を学び説明する。ロールプレイを通して、疾患を抱える対象者との対応・問診を実践することができる。がんに対してのリハビリテーションを理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	Interprofessional Education (IPE) ①			
2	Interprofessional Education (IPE) ②			
3	Interprofessional Education (IPE) ③			
4	Interprofessional Education (IPE) ④			
5	Interprofessional Education (IPE) ⑤			
6	AED	(小堀)		
7	BLS	(小堀)		
8	AED BLS 実技	(小堀)		
9	診断学入門	(澤田)		
10	インフォームドコンセント、がん告知	(澤田)		
11	救急医療、リスクマネジメント	(澤田)		
12	医の倫理	(澤田)		
13	がんのリハビリテーション①	(酒巻)		
14	がんのリハビリテーション②	(酒巻)		
15	ロールプレイ 疾患の理解～対象者対応の実践	(福林)		
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	25%	澤田先生担当範囲		
レポート・課題	75%	提出物(IPE)35%、酒巻先生10%、福林先生10%、小堀先生20%		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

令和8年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床栄養学		講義	三好 真琴・前重 伯壮	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>リハビリテーションを受けている患者さんには低栄養の人が多という報告がある。栄養管理をしながら理学療法を実施しなければその効果はなく、ずさんな栄養管理で行えば逆に悪化してしまう可能性もある。本講義では栄養学に関する基礎的な知識を習得し、栄養と健康維持・増進、介護予防及びリハビリテーションとの関連を理解することを目指す。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 栄養を食品面と生体面の双方から説明することができる。 2. 栄養がリハビリテーション効果に及ぼす影響を説明できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	生化学・栄養学に必要な基礎化学、栄養評価			
2	蛋白質とアミノ酸、酵素・ホルモン			
3	糖質、脂質			
4	ビタミン・ミネラル、消化と吸収			
5	主な病態の栄養管理、静脈・経腸栄養法、栄養と摂食嚥下			
6	褥瘡と栄養			
7	エネルギー代謝、運動と栄養			
8	リハビリテーションと栄養			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	身体内の物質の反応や栄養状態の知識について理解できているかを評価します。		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
リハベリック生化学・栄養学 第2版	内山靖・藤井浩美・立石雅子 編		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

令和8年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床薬学		講義	大石 美恵	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
理学療法の対象となる人は、薬物療法を受けていることが多い。この講義では、薬についての基礎的な知識を学ぶとともに、主な疾患に対する薬物治療について理解を深める。薬物の作用や副作用、注意点を理解し、理学療法に活かせる能力を身につけることを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 薬の作用機序について説明できる。 2. 代表的な神経、筋作用薬、循環器治療薬、呼吸器治療薬について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	臨床薬理学総論1			
2	臨床薬理学総論2			
3	感染・炎症の制御と薬物療法			
4	神経疾患の薬物療法			
5	精神疾患の薬物療法			
6	循環器疾患の薬物療法			
7	疼痛の制御と薬物療法			
8	注意すべき頻用される薬物/まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	薬の基礎的な知識、主な疾患に対する薬物療法についての理解を評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載	予習・復習することを望みます。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
リハベリック 薬理学・臨床薬理学 第2版	内山靖・藤井浩美・立石雅子 編		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進② 臨床薬理学 第7版	赤瀬智子 柳田俊彦		メディカ出版	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
理学療法概論Ⅱ		講義	鮫島 一雄	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
次年度の臨床実習を目前にして、今までの単なる知識の詰め込みだけでは、臨床実習への準備は不十分です。この授業では、臨床実習で必要となるPT学生としての資質・知識面および問題解決能力の向上が目的です。そのため、知識を記憶するだけでなく、自ら考えて問題解決を行う事が重要になります。1年次授業で学んだが忘れていた事や授業中に理解できなかった事項は必ず日々の復習で解決することが大切です。				
授業の到達目標				
・理学療法用語を理解する ・理学療法過程を理解する ・理学療法過程に沿って考えられる ・臨床推論を理解する ・ガイドライン、クリニカルパスを理解する ・SOAPを理解し使える ・電子カルテと紙カルテの違いを知る ・診療報酬制度の概略を理解する				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション 理学療法業務（理学療法士ができること）			
2	理学療法過程1(PDCA とEPDCAサイクル、クリニカルリーズニング)			
3	理学療法過程2（情報収集）			
4	理学療法過程3(患者の問題点の抽出)			
5	理学療法過程4(情報の解釈/統合と解釈)			
6	評価の視点			
7	ボトムアップとトップダウン			
8	主訴・要望・ニーズ・ホープと理学療法目標			
9	臨床推論			
10	ロートンモデル 社会保障 保険診療			
11	診療報酬 診療記録 診療記録の書き方 電子カルテと紙カルテ			
12	POSとPOMR SOAP			
13	エビデンス クリニカルパス ガイドライン			
14	SOAP演習			
15	授業まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題				
小テスト	100%	授業中に複数回実施する。		
その他				
自由記載	再試験は筆記試験とし、試験内容は小テストに準じる。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
理学療法概論テキスト 第4版	細田多穂 監修		南江堂	
理学療法概論ⅠⅡ32期生資料（1年次配布分）	担当教員作成分			
理学療法概論Ⅱ32期生資料（2年次配布分）	担当教員作成分			
自由記載	手持ちの漢和辞典・英和辞典又は電子辞書を授業中使用するので準備する事。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床運動学		講義	小林 正明	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
理学療法の主な目的は、患者の基本的動作能力の回復である。臨床の場面では運動器系、神経・筋系、臓器系に由来する運動障害を対象に運動療法を手段として治療することが多い。従って理学療法士は人体の基本的な運動学に周知する事はもちろん、臨床の場面で見える患者の異常な運動を運動学的な観点から見る必要がある。臨床運動学では様々な運動が遂行可能となるメカニズムや、主な疾患・障害の姿勢動作分析が理解できるようになることを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 運動力学・生体力学の基礎知識と運動への繋がりが理解できる 2. 正常な姿勢動作の生体力学的メカニズムとその解釈が説明できる 3. 疾患特有の疾患・動作と病態・障害像との関係を理解できる 4. 運動技能を獲得するうえでの運動学習の理論的枠組みが理解できる 5. 異常な運動・反応を触診にて評価することができる				
授業計画				
回	内容			
1	臨床運動学 概論、骨・関節領域の臨床的捉え方① 関節の基礎			
2	骨・関節領域の臨床的捉え方② 関節の障害			
3	筋・筋膜領域の臨床的捉え方① 筋の基礎			
4	筋・筋膜領域の臨床的捉え方② 筋の評価			
5	筋・筋膜領域の臨床的捉え方③ 筋と筋膜の障害			
6	随意運動・不随意運動①			
7	随意運動・不随意運動②・運動学習			
8	姿勢 (構成要素・制御メカニズム)			
9	姿勢の診かた			
10	姿勢 (異常)			
11	基本動作の捉え方			
12	歩行 (構成要素・制御メカニズム)			
13	歩行 (神経機構)			
14	歩行の診かた			
15	歩行 (異常・老年性)			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
PT・OTビジュアルテキスト 姿勢・動作・歩行分析 第2版	島中泰彦		羊土社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学	石川朗・種村留美 総編集		中山書店	
観察による歩行分析	kirsten Götz-Neumann		医学書院	
動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践	石井慎一郎 編著		MEDICAL VIEW	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
理学療法評価学Ⅳ		演習・講義	坂東 恵美子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>評価学では、理学療法を行うための検査・測定について学び、実技を通して技術の修得をすることが目的となる。本講義では、以下の項目について知り、各項目の神経学的機序についても理解する。</p> <p>1. 反射検査 2. 筋緊張検査 3. 協調運動機能検査 4. バランス検査</p>				
授業の到達目標				
<p>・各検査の意義が説明できる。・各検査の方法を理解し、実施できる。・各検査の結果を記録することができる。・反射のメカニズムや反射異常の病態とメカニズムについて説明できる。・筋緊張異常の病態とメカニズムについて説明できる。・協調運動機能、またその検査について説明できる。・平衡機能とそのメカニズム、またその検査について説明できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	講義オリエンテーション 反射検査① 反射の神経学的機序について			
2	反射検査② 反射検査概要 腱反射実技(五大反射)			
3	反射検査③ 腱反射実技(その他の反射)			
4	反射検査④ 表在反射、病的反射			
5	反射検査⑤ 反射まとめ(実技復習)			
6	筋緊張検査① 筋緊張の神経学的機序について 筋緊張検査概要			
7	筋緊張検査② 筋緊張検査実技			
8	筋緊張検査③ 筋緊張検査実技、姿勢筋緊張について			
9	実技試験：反射検査			
10	協調運動機能検査① 協調運動とは 協調運動機能検査とは 協調機能検査に必要な基礎知識			
11	協調運動機能検査② 四肢に対する検査実技			
12	協調運動機能検査③ 体幹機能などを含む協調運動機能検査実技			
13	バランス検査① バランスとは バランスの基礎知識			
14	バランス検査② バランス検査の実際 1 質的評価			
15	バランス検査③ バランス検査の実際 2 (FRT, TUG, FBSなど) まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	75%			
レポート・課題				
小テスト				
その他	25%	実技試験		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準理学療法学専門分野 理学療法評価学 第4版	内山靖 他		医学書院	
自由記載	適宜資料を配布する。講義資料ファイルを作り、ファイリングすること。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
ベッドサイドの神経の診かた 第18版	田崎義明 他		南山堂	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
理学療法評価学Ⅴ		演習・講義	前川 加奈	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
中枢神経障害の病態を理解し、感覚検査・片麻痺機能検査・脳神経の検査・高次脳機能障害の検査技術を修得することが目的である。実際の場面や障害像を想定した評価が行えるよう実技をできるだけ多く行う。それぞれの検査の意義や結果の解釈の仕方を基礎的知識と結びつけ、理解することを目指す。				
授業の到達目標				
1. 各検査における基礎知識を理解できる 2. 検査の目的、注意点、手順を正しく理解できる 3. 検査を実践する技能を身につける 4. 検査結果の記載方法と考察について理解する 5. 疾患と関連づけて考えることができる				
授業計画				
回	内容			
1	感覚検査 感覚の種類や伝導路 検査の目的 注意点 手順			
2	感覚検査 表在感覚検査方法（実技） 深部感覚検査方法（実技）			
3	感覚検査 温冷覚検査方法（実技） その他の検査方法（実技）			
4	感覚検査 検査方法（実技）			
5	脳神経の検査 脳神経（Ⅰ～Ⅵ）の機能 検査方法（実技）			
6	脳神経の検査 脳神経（Ⅶ～Ⅻ）の機能 検査方法（実技）			
7	脳血管障害の評価			
8	片麻痺機能検査（Brunnstrom recovery stage 上肢）検査方法（実技）			
9	片麻痺機能検査（Brunnstrom recovery stage 下肢）検査方法（実技）			
10	片麻痺機能検査（12段階片麻痺機能検査）検査方法（実技）			
11	高次脳機能障害 概要・評価①注意障害、遂行機能障害について			
12	高次脳機能障害 概要・評価②失行、失語について			
13	高次脳機能障害 概要・評価③失認、記憶障害について			
14	実技テスト（感覚検査）			
15	実技テスト（片麻痺機能検査）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	70%			
レポート・課題				
小テスト				
その他	30%	実技試験		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学 第4版	内山靖 岩井信彦 編		医学書院	
病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版	医療情報科学研究所 編		メディックメディア	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
ベッドサイドの神経の診かた 第18版	田崎義昭 斎藤佳雄		南山堂	
基礎運動学 第6版	中村隆一 斎藤宏		医歯薬出版	
自由記載				
備考				
*解剖学演習Ⅲ、中枢神経系理学療法学Ⅰの配布資料を常に持参すること				

科目名		授業形態	担当教員名	
理学療法評価学VI		演習・講義	小堀 博史	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
本講義では、理学療法士が行う理学療法評価や、その内部に含まれる検査測定として最もよく行われる「姿勢観察」「動作観察」を主に扱う。内容は理学療法評価の進め方や臨床推論による情報の捉え方、観察方法の基礎から実践、記録方法等が含まれる。講義を通じて自ら能動的に情報収集を図り、情報の取り扱い方を考え、理学療法評価を実践していく力を養うことを目的とする。				
授業の到達目標				
理学療法評価の概要を理解し、自ら理学療法評価の実践まで展開することができる。 各姿勢・動作における運動学的特徴を把握し、観察から記録までの一連の過程を自ら実践することができる。 観察結果からその成因を分析し、検査測定への繋がりを想起することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	評価総論①（理学療法評価 概要）			
2	評価総論②（理学療法評価の進め方・情報収集）			
3	評価総論③（理学療法評価 捉え方）			
4	姿勢観察・分析①（立位）			
5	姿勢観察・分析②（立位）			
6	姿勢観察・分析③（座位）			
7	姿勢観察・分析④（臥位・体圧分散）			
8	動作観察・分析①（立ち上がり）			
9	動作観察・分析②（立ち上がり）			
10	動作観察・分析③（起き上がり）			
11	動作観察・分析④（起き上がり）			
12	動作観察・分析⑤（歩行）			
13	動作分析・分析⑥（歩行）			
14	動作観察・分析⑦（歩行）			
15	評価総論④（臨床推論・まとめ）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	50%			
レポート・課題	40%	不定期で講義時間中・自宅学習にて記録物の作成を求める。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他	10%	講義への参加態度で評価を行う。評価基準は別途示す。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学 第4版	内山靖 岩井信彦	医学書院		
PT・OTビジュアルテキスト 姿勢・動作・歩行分析 第2版	畠中泰彦	羊土社		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
解剖学・生理学・運動学に基づく動作分析	奈良勲	医歯薬出版株式会社		
症例動作分析 動画から学ぶ姿勢と動作	隈元庸夫	ヒューマン・プレス		
動作のメカニズムがよくわかる 実践！動作分析 第2版	西守隆	医歯薬出版株式会社		
自由記載				
備考				
臨床で求められる姿勢動作の基礎・観察法を学びます。積極的に参加すること。				

令和8年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
運動療法学 I		演習・講義	福林 秀幸	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
理学療法士の治療技術としての基本となる関節可動域運動や筋力増強など、各種の運動療法の仕組みや方法を学び、各疾患に対しての身体症状や問題のある状態に対して、リスクを考慮しながら身体機能の改善するための運動療法の技術を知り習得する。				
授業の到達目標				
筋、関節、姿勢異常、持久力、感覚障害など症状・障害の原理を理解し、治療における根拠を持った運動療法プログラムの立案ができることを目標とする。				
授業計画				
回	内容			
1	運動療法の基礎・リスク管理			
2	コンディショニングのための手段について			
3	関節可動域制限の基礎			
4	関節可動域制限に対する運動療法			
5	関節可動域制限に対する運動療法 演習			
6	筋機能障害の基礎			
7	筋機能障害に対する運動療法			
8	筋機能障害に対する運動療法 演習 小テスト 1回目			
9	持久力			
10	基本動作能力再獲得のための運動療法			
11	歩行能力再獲得のための運動療法			
12	基本動作能力・歩行能力再獲得のための運動療法 演習			
13	協調運動障害（運動失調とバランス機能障害）に対する運動療法			
14	感覚障害に対する運動療法			
15	バイオフィードバック 小テスト2回目			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%			
レポート・課題				
小テスト	20%			
その他				
自由記載		筆記試験と小テストを合わせて総合評価する。		
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動療法学	石川朗 他		中山書店	
運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版	市橋則明		文光堂	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

令和8年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
運動療法学Ⅱ		演習・講義	小堀 博史	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
高齢化、高度医療の発展や施策の展開が図られる保健・医療・福祉領域において、理学療法士に求められる役割や知識について理解することを目的とし、予防理学療法、産業理学療法について授業を通して、基本となる考え方や評価とアプローチの知見を学習する。				
授業の到達目標				
予防理学療法、産業理学療法において、理学療法の活動分野・役割が理解ができる。環境やライフステージに伴う身体的変化の特性を学び、理学療法の介入における予防的観点、評価やアプローチについて理解ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	高齢期における予防理学療法① 考え方			
2	高齢期における予防理学療法② 転倒・骨折予防			
3	高齢期における予防理学療法③ 運動器障害の予防（ロコモティブシンドローム）			
4	高齢期における予防理学療法④ 運動器障害の予防（サルコペニア、フレイル）			
5	高齢期における予防理学療法⑤ 認知症予防			
6	高齢期における予防理学療法⑥ 廃用症候群の予防			
7	高齢期における予防理学療法⑦ 咀嚼、嚥下障害の予防			
8	高齢期における予防理学療法⑧ 排尿障害の予防			
9	壮年期における予防理学療法			
10	学童期における予防理学療法			
11	産業理学療法① 役割について			
12	産業理学療法② 筋骨格系、メンタルヘルス問題の予防			
13	災害時の理学療法			
14	予防理学療法の実践① 集団指導（実技）			
15	予防理学療法の実践② 集団指導（実技）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	10%	内容・形式については講義中に指示する。		
小テスト	80%	小テストは各単元の授業中で実施する。		
その他	10%	講義への参加態度で評価を行う。評価基準については別途示す。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
予防と産業の理学療法	樋口由美 他編	南江堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
高齢者理学療法学	島田裕之 総編	医歯薬出版株式会社		
15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 予防理学療法学	石川朗 総編	中山書店		
自由記載				
備考				
授業開始時に前回授業の小テストを実施するため、集中して受講、復習をすること。				

科目名		授業形態	担当教員名	
物理療法学 I		演習・講義	福林 秀幸	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
物理療法は物理学的な現象を治療に応用するものであり、基本的な物理学の知識は必須である。授業ではできるかぎり簡単にそれぞれの必要な物理学の知識について説明をし、その応用としての物理療法（温熱・寒冷・光線・水治・超音波）の基本的技術適応、禁忌、方法等を演習を交えながら行う。				
授業の到達目標				
物理療法の仕組みを理解し、症状に併せた治療方法を選択できるようになる。自ら機器を実際使用する事で実際の治療現場を意識することができるようになる。				
授業計画				
回	内容			
1	物理療法の基礎			
2	リスク管理			
3	物理療法を行うための触診			
4	温熱療法（1）伝導熱：ホットパック パラフィン浴			
5	温熱療法（1）演習 伝導熱：ホットパック パラフィン浴			
6	温熱療法（2）輻射熱：赤外線療法			
7	温熱療法（3）エネルギー変換熱：超短波療法 極超短波療法			
8	温熱療法（3）演習 赤外線療法 極超短波療法 小テスト 1回目			
9	光線療法 紫外線療法 レーザー療法			
10	光線療法 演習 紫外線療法 レーザー療法 ケーススタディ			
11	寒冷療法			
12	水治療法			
13	水治療法 演習 渦流浴			
14	前期のまとめ1			
15	前期のまとめ2 小テスト 2回目			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%			
レポート・課題				
小テスト	20%			
その他				
自由記載	筆記試験と小テストを合わせて総合評価する。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 物理療法学・実習 第2版	石川朗 他		中山書店	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

令和8年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
日常生活活動学 I		講義	堂脇 ゆかり	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
リハビリテーション医学の中でADLは大きな領域をしめる。リハビリテーションチームの一員である理学療法士として、活動の視点から障害を捉えていく。日常生活活動学 I ではADL総論として概念、障害との関連、評価法などについて学習する。また、車いす、杖などADLを支援する機器についても学習する。				
授業の到達目標				
1. ADLの概念を理解する。 2. ICFを習熟する。 3. ADL評価の意義・項目・方法を理解し実施できるようになる。 4. 車いす、各種杖についての知識を深める。				
授業計画				
回	内容			
1	ADLの概念 ICF①構造			
2	ICF② 構造・特徴			
3	ICF③ 特徴			
4	ADL評価の目的・意義			
5	代表的な評価法① B. I.			
6	代表的な評価法② FIM			
7	代表的な評価法③ FIM			
8	その他の評価法① 寝たきり度・認知度など			
9	その他の評価法② IADL, QOL評価など			
10	杖① 種類			
11	杖② 車いす①種類			
12	車いす② 採寸・電動車いすなど			
13	車いす③ 介助方法・操作方法など			
14	ADL評価・治療の考え方			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準理学療法学専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第7版	鶴見隆正・隆島研吾 編集	医学書院		
実践リハビリテーションシリーズ脳卒中の機能評価SIASとFIM(基礎編) 1版	千野直一 他編著	金原出版		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準理学療法学専門分野 理学療法評価学 第4版	内山靖 編集	医学書院		
理学療法概論テキスト 第4版	監修 細田多穂	南江堂		
自由記載				
備考				

令和8年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
装具学		講義	谷 和真	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>装具の概要を理解し、臨床において対象者の障害、症状などとの関連を捉えられるようにする。また、対象者への装着を踏まえ、その適合や治療プログラムを検討する等につながるように、装具の選択することやニーズを考えることができる基礎を身につける。</p>				
授業の到達目標				
<p>・装具の目的を説明できる。・装具の基本的な構造や機能について説明できる。・装具の種類、適応疾患、機能について説明できる。・下肢装具の適合性を確認するために、チェックアウト項目を説明できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	装具学総論			
2	下肢装具の部品とその機能			
3	短下肢装具			
4	長下肢装具・股装具・膝装具			
5	靴型装具			
6	下肢装具のチェックアウト			
7	体幹装具、側弯症装具			
8	上肢装具			
9	疾患別装具の処方：脳卒中片麻痺			
10	疾患別装具の処方：整形外科疾患			
11	疾患別装具の処方：関節リウマチ			
12	疾患別装具の処方：対麻痺・小児			
13	演習（装具カンファレンス）1			
14	演習（装具カンファレンス）2			
15	装具学まとめ（国家試験対策を含む）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%			
レポート・課題				
小テスト	20%	一度小テストを実施します。範囲は授業の中で説明します。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 装具学 第2版	石川朗 編		中山書店	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
義肢装具学テキスト 改訂第4版	細田多穂 他		南江堂	
自由記載				
備考				

令和8年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
運動器系理学療法学 I		講義・演習	児島 章	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
各運動器疾患の特徴・症状・画像を学んだうえで、理学療法士としてできる評価・治療を考えられるよう講義をすすめていく。				
授業の到達目標				
医学的知識の裏付けを基に、骨関節疾患に対する障害像の把握と障害発生要因を理解する。その上で、理学療法の評価を、実習を通し出来るだけ実践的に学び、疾患に対する問題点の想起が出来ることを目標とする。				
授業計画				
回	内容			
1	概論			
2	骨折(1)			
3	骨折(2)			
4	高齢者の骨折(1)			
5	高齢者の骨折(2)			
6	高齢者の骨折(3)			
7	高齢者に伴う合併症(1)			
8	高齢者に伴う合併症(2)			
9	変形性関節症(1)			
10	変形性関節症(2)			
11	変形性関節症(3)			
12	R A (1)			
13	R A (2)			
14	R A (3)			
15	模擬患者			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	整形外科疾患の病態や治療が理解できているかを評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
ここがポイント！整形外科疾患の理学療法 第3版	富士武史 監修		金原出版	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
機能解剖学的触診技術 上肢	青木隆明 監修		メジカルビュー社	
機能解剖学的触診技術 下肢	青木隆明 監修		メジカルビュー社	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
内部障害理学療法学 I		講義	酒巻 直美・井ノ元 宏希	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
運動における循環系、代謝系の反応を復習し、内部障害について理解する。特に代表的な循環器疾患、糖尿病、慢性腎臓病の病態、症状、障害を理解し、それぞれの包括的リハビリテーション、理学療法について理解する。				
授業の到達目標				
1. 循環系、代謝系の生理的反応を説明できる。2. 代表的な疾患の病態、症状、障害を説明できる。3. 代表的疾患の包括的リハビリテーション、理学療法について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	内部障害総論・運動処方総論			
2	内部障害における運動処方の基本			
3	心電図の理解・不整脈と心電図			
4	心臓リハビリテーション総論			(井ノ元)
5	心臓リハビリテーション：運動負荷試験(CPX)			(井ノ元)
6	心臓リハビリテーション：疾患別(1) 心不全			(井ノ元)
7	心臓リハビリテーション：疾患別(2) 虚血性心疾患			(井ノ元)
8	心臓リハビリテーション：疾患別(3) 不整脈・閉塞性動脈疾患			(井ノ元)
9	心臓リハビリテーション：疾患別(4) 心臓血管外科術後			(井ノ元)
10	糖尿病の理学療法(1)：糖代謝・病態・障害・治療			
11	糖尿病の理学療法(2)：2型糖尿病の運動療法			
12	糖尿病の理学療法(3)：合併症と運動療法			
13	腎臓リハビリテーション(1)：慢性腎臓病概要・障害			
14	腎臓リハビリテーション(2)：運動療法			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	90%			
レポート・課題				
小テスト	10%			
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
最新理学療法学講座 内部疾患理学療法学	高橋哲也 編著		医歯薬出版	
自由記載	随時資料を配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改訂第4版	細田多穂 監修		南江堂	
自由記載				
備考				
解剖学、生理学、内科学の内容を復習して授業に臨んでください。				

科目名		授業形態	担当教員名	
内部障害理学療法学Ⅱ		講義・演習	小林 正明・中村 由果理	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
呼吸に関わる解剖学、運動学、生理学的な知識を学び実技を通して知識を整理する。 呼吸器障害に対する評価方法と評価の流れを学ぶ。代表的な呼吸器障害の病態を理解し、基本的な理学療法が実施できる。吸引の基本的な技術を習得する。				
授業の到達目標				
・内部障害領域における理学療法の意義を説明できる ・呼吸器系の解剖・構造を説明できる ・胸郭と肺の位置関係を説明できる ・画像所見、血液データや生理検査データを説明できる ・呼吸器障害の病態について説明できる ・呼吸理学療法の基本手技（コンディショニング、排痰法、吸引）ができる				
授業計画				
回	内容			
1	呼吸リハビリテーションの目的・内部障害領域での理学療法士の役割と現状			
2	呼吸器系の解剖学・運動学・体表と肺の位置関係			
3	呼吸器系の生理学、血液ガス、生理検査データの解釈			
4	呼吸不全の病態と呼吸器疾患			
5	呼吸理学療法のための評価 医療面接とフィジカルアセスメント(聴診・打診)			
6	呼吸器障害における運動能力テスト、画像読影の基本			
7	呼吸理学療法の基本手技（コンディショニング）			
8	呼吸理学療法の基本手技（排痰法）			
9	呼吸理学療法の基本手技（呼吸困難改善のための手技）			
10	呼吸理学療法の基本手技（運動療法）			
11	酸素療法と呼吸理学療法			
12	慢性呼吸不全に対する理学療法			
13	急性呼吸不全に対する理学療法・人工呼吸療法・吸引			
14	吸引に関する方法と実際			
15	在宅での理学療法、まとめ（評価から治療の整理）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
15レクチャーシリーズ 内部障害理学療法学 呼吸 第3版	石川朗・玉木彰 編	中山書店		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
内部障害理学療法学テキスト（シンプル理学療法学シリーズ）	細田多穂 監修	南江堂		
自由記載				
備考				

令和8年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
中枢神経系理学療法学 I		講義・演習	前川 加奈・谷 和真	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
中枢神経の機能と構造ならびに中枢神経障害の病態、症状を理解することを目的とする。特に脳血管障害については分類、病態、症状、評価、理学療法についての知識の向上を図る。				
授業の到達目標				
1. 中枢神経障害における運動障害、感覚障害についてメカニズムを説明できる。 2. 脳血管障害の分類、病態、症状について理解する。 3. 脳血管障害における評価、理学療法について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	運動と感覚			
2	感覚障害 1 末梢神経障害			
3	感覚障害 2 中枢神経障害			
4	運動麻痺			
5	中枢神経障害の病態			
6	高次脳機能障害 総論			
7	高次脳機能障害 各論			
8	脳血管障害総論			
9	脳出血① 概要			
10	脳出血② 部位別の症状			
11	脳梗塞① 概要			
12	脳梗塞② 臨床病型別の特徴			
13	くも膜下出血			
14	頭部外傷			
15	脳画像の基礎			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%			
レポート・課題				
小テスト	20%	4回実施する。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
病気がみえる脳・神経 第2版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア		
標準理学療法学・作業療法学：専門基礎分野 神経内科学 第6版	川平和美	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				
*解剖学演習Ⅲの配布資料、理学療法評価学Ⅴの資料を常に持参すること				

令和8年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
中枢神経系理学療法学Ⅲ		講義	坂東 恵美子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
神経筋疾患における病態と症状を理解し、理学療法の評価や治療について知り、修得する。それぞれの疾患の特異的な障害像を理解し、個々の症状に応じた評価や理学療法にその知識を活かすべく身に付けることを目的とする。				
授業の到達目標				
中枢神経系の構造と機能解剖や神経生理の基礎知識を使用し、運動制御について説明できるようになる。各疾患の病態を理解し、必要な機能障害および能力障害の評価を列挙することができる。基本的な治療について知り、その目的を理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	講義オリエンテーション、運動失調（脊髄小脳変性症、多系統萎縮症を含む）：病態と症状			
2	運動失調（脊髄小脳変性症、多系統萎縮症を含む）：評価			
3	運動失調（脊髄小脳変性症、多系統萎縮症を含む）：理学療法			
4	パーキンソン病：病態と症状			
5	パーキンソン病：評価			
6	パーキンソン病：理学療法			
7	筋萎縮性側索硬化症			
8	多発性硬化症			
9	ニューロパチー（ギランバレー症候群など）			
10	筋ジストロフィー：病型と特徴			
11	筋ジストロフィー：評価と理学療法			
12	多発筋炎、皮膚筋炎			
13	神経筋接合部の疾患（重症筋無力症、ランバートイトン症候群）			
14	神経変性疾患：代表的な神経変性疾患について			
15	脳腫瘍 まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%			
レポート・課題	20%	提出期日が守れること。国試過去問の課題に解答だけでなく自己学習・解説を書き加えること。		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア		
自由記載	適宜資料を配布する。講義資料ファイルをつくり、ファイリングすること。			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ 第2版	石川朗 他編	中山書店		
PT・OTビジュアルテキスト 神経障害理学療法学第2版	潮見泰藏	羊土社		
Crosslink理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ 神経筋障害	中山恭秀 鈴木敏明	メジカルビュー社		
自由記載				
備考				

令和8年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
理学療法特論Ⅲ		演習	福林 秀幸・坂東 恵美子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活において理学療法士としての基本的資質の向上を目指す。 ・国家試験に向けての基礎知識を確認する。 ・自己学習を通して知識の向上を図る。 ・他学年との合同授業を通して検査測定技術の向上を図る。 ・学生生活を円滑に行うための連絡事項を伝える。 				
授業の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・知識の整理、技術向上を図り日々の講義や臨床現場に活かすことができる。 ・学校生活を円滑に行うことができる。 				
授業計画				
回	内容			
1	学生生活オリエンテーション 前期の流れ 卒業までの壁			
2	学生生活オリエンテーション 前期期間のイベント 学業について			
3	連絡事項・科目学習・演習 施設見学体験実習発表準備			
4	施設見学体験実習発表			
5	合同授業オリエンテーション			
6	連絡事項・科目学習・演習 実技練習(ROM MMT)			
7	1年生と合同授業：模擬患者を検査する			
8	連絡事項・合同授業後の振り返りと実技練習			
9	連絡事項・科目学習・演習 実技練習(腱反射)			
10	連絡事項・科目学習・演習 実技練習(感覚検査)			
11	連絡事項・科目学習・演習 科目別学習発表について			
12	連絡事項・科目学習・演習 科目別学習発表準備			
13	連絡事項・科目学習・演習 科目別学習発表準備			
14	連絡事項・科目学習発表			
15	連絡事項と演習 前期 定期試験について 実技試験に向けて練習			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	70%	授業内で提示する課題の取り組みや結果をもとに評価する。評価基準は別途示す。		
小テスト	30%	授業内で複数回実施する		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	適宜資料を配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				
状況によって進度は変更する場合があります。				